

調査書作成上の注意（兵庫・大阪用）

【平成30年3月中学校卒業見込の者】

1 各欄の記入は、次の通りとする。

(1) 過年度卒の受験者については、「卒業後の進路」に中学校卒業後の動向を記入する。

(2) 学習の記録

- ・第1学年、第2学年については、各教科とも、中学校生徒指導要録（以下「指導要録」という）に記入してある5段階評定を転記する。（10段階評定の場合も、そのまま転記する）
- ・第3学年については、各教科とも、指導要録に記入する様式によって、目標に準拠した評価による5段階評定を記入する。なお、特別支援学級在籍者については、学級の実態に応じて記入する。
- ・「第3学年での観点別学習状況の評価」欄については、A、B、Cの評価を記入する。
「特記事項」の欄については、指導要録の観点別学習状況における優れた特徴や各教科、総合的な学習の時間の学習について総合的に見た長所を具体的に記入する。なお、特別に記入を要する事項（例えば、病気、けが等により評定に著しく変動のあった場合）があればその状況についても記入する。また、中間・期末等の定期考査、及び実力テストの成績も記入する。
- ・「選択教科」の欄については、選択教科名、年間の計画授業時数及び評定を記入する。なお、評定は、第1学年、第2学年については、指導要録に記入してある評定を転記し、第3学年については、「十分満足できると判断されるもの」をA、「おおむね満足できると判断できるもの」をB、「努力を要すると判断されるもの」をCとし、A、B、Cの評定を記入する。実施していない場合は、「教科」、「時数」及び「評定」の欄に斜線を引く。
- ・「総合的な学習の時間の記録」の欄については、「学習活動」の欄にこの時間に行った学習活動、取組の内容（テーマ等）を記入し、「評価」欄に生徒の学習状況における顕著な事項や生徒にどのような力が身に付いたか等を記入する。

(3) 「特別活動の記録」

- ・第1学年、第2学年については、指導要録に記入してある「特別活動の記録」を転記し、第3学年については、指導要録の記入の仕方によって記入する。
- ・「委員等」の欄については、各学年における主な係名や委員名及び学校行事における役割を記入する。

(4) 「行動の記録」

第1学年、第2学年については、指導要録に記入してある「行動の記録」を転記し、第3学年については、指導要録の記入の仕方によって記入する。

(5) 「出欠の記録」

- ・第1学年、第2学年については、指導要録に記入してある「欠席日数」を転記し、第3学年については、12月末現在で記入する。また、遅刻・早退の実数も学年ごとに記入する。
- ・「主な欠席理由」の欄には、各学年で、欠席日数15日以上又は連続して6日以上の場合は、必ずその主な理由を記入する。ただし、出席停止、忌引き等の日数は、欠席日数に含めない。

(6) 「新体力テストの記録」

第3学年において実施したものを記入する。実施していない場合や、一部種目を欠いて実施している場合は、「総合評価」の欄に斜線を引き、その理由を「備考」の欄に記入する。

(7) 「総合所見及び参考となる事項」

部活動の所属部名及び主な活動状況、特別活動に関する事実及び所見、行動に関する所見、校外における活動状況（ボランティア活動、文化・スポーツ活動等）など生徒の成長の状況を記入する。